

創立 1986 年

2021～2022年度クラブ目標

『新たな奉仕に踏み出そう  
ロータリーの次の百年のために』

会長 鈴木 孝 幸  
幹事 須藤 正 樹



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-22年度国際ロータリーテーマ

## 第1702回例会

令和4年3月10日 (18:30～19:30)

○ソング

- 四つのテスト

○ビジター

- (株)岡野コーティング 岡野誠様
- 東白川RC 金澤拓哉様

○スマイルBOX

●鈴木孝幸会長 (本日は実に6週間ぶりの会場での例会、参加して頂いた皆様、ありがとうございました。伝説のメンター、岡野誠様、素晴らしい卓話ありがとうございました。)

●須藤正樹幹事 (岡野様、卓話ありがとうございました。とてもいい勉強ができました。みなさんと久しぶりに会えたのがうれしいです。)

●藤田和克会員 (岡野様、卓話ありがとうございました。久々の会場での例会、良かったです。1日でも早くコロナが収束しますように。)

●成井正之会員 (岡野様卓話ありがとうございました。久しぶりの例会出席です。分区交流コンペに多数ご参加頂ければ幸いです。)

●金田昇会員 (岡野様、卓話ありがとうございました。久しぶりの対面での例会、やっぱり良いですね。)

●永野文雄会員 (皆様お久しぶりです。岡野コーティング社長・岡野誠様、卓話ありがとうございました。東白川クラブの金澤拓哉様、ようこそ。)

●佐藤幸彦会員 (誕生日プレゼント、鶴丸委員長届けて頂き、ありがとうございました。スキー愛好会で、2/5～6日蔵王、天元台スキー場へ、金田ガバナ補佐、鈴木会長、青木会員(家族)、と私で行ってきました。)

▶第1702回例会出席状況 (R4年3月10日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	51名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	65名
Ⓒ ①の出席者数	32名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	9名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓕ (メイクアップ補填後の出席会員数)	41名
Ⓗ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓕ)	51
Ⓘ = Ⓖ / Ⓗ × 100 (例会出席率)	80.3%

## 本日のプログラム

### ■会長の時間

鈴木孝幸会長



皆さん、こんばんは。前回のこのリアル例会、この会場での例会は1月27日の夜例会で、沼田会員の卓話例会でありました。ですから、今日は実に6週間ぶりのこの会場での例会ということになります。1度の休会を挟んで、あとは4度の100パーセントズーム例会を行って、ようやくこういった状況でリアルに開催できたこと、本当にこの会場に帰ってきたななんていう感じで感無量でございます。ですが、その前にこういったリアルな例会に参加していただきました会員の皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。今もなお、コロナの感染者数が気になるところであります。今日の3時に、須藤幹事のほうに事務局から報告がありました。内容は、商工会議所内でコロナの感染者が一人出てしまったということで、今日は事務局の吉田さんには欠席いただいてこの会を開催したいという感じでありました。今後も本当にこの感染状況を注意しながら感染対策を徹底しながら、こういったリアルな例会を継続開催できればいいなと思っておりますが、ちょっと本当に慎重に判断していきなさいいけないのはしばらく続くのかなと思っております。まずは初めに、今日のお客様をご紹介したいと思います。初めに本日卓話をさせていただきます、巷で伝説のメンターという形でもう大人気の岡野誠様でございます。岡野誠様の細かなプロフィールは、あとから担当例会のほうからご紹介いたしますので、よろしくお願いたします。それと、岡野誠さんを応援するために棚倉町の東白川ロータリークラブから応援で来ていただきました金澤拓哉様でございます。今日は、メーカーどうもありがとうございます。最後までよろしくお願いたします。さて、本日の卓話は、先程言いました伝説のメンター岡野誠様の卓話であります。私、何回かお会いしたことあってちょっとだけ親しいので、親しみを込めてさん付けでこれからちょっと呼ばせていただきまして、岡野さんは皆さんもご存じだと思いますが、2月17日の100パーセントズーム例会の時に鶴丸会員の卓話だったんですが、その卓話の中でビデオと写真を用いて岡野さんの紹介をしていますので、多分ここにおられる半分以上の方はわかっておると思います。実は、わたくしはロータリーとは別な会で一度岡野さんの話を拝聴させていただいた経緯があります。その時は1時間半くらいの話だったんですね。その感想を一言だけ申し上げさせていただきます。私の会長の時間終わりにしたいんですが、本当にこのコロナ禍、マスクをしなきゃいけない、むやみに出歩いちゃいけない。コミュニケーション不足になる疲弊した世の中で、岡野さんの話はタイムリーだなと私感じました。とにかく、私は岡野さんの講演を聞いた後、非常に元気をもらってファイトが湧いてきて、今現在この聞いた話をすぐにでも職員のみんなに、そして家族にフィードバックしたい、伝えてあげたいという気持ちでいっぱいになりました。それで、その講演の後も今もそういった気持ちで社員に接しています。本当に抽象的な話ですいません。具体的な話をすると話がつまなくなるので、本当抽象的な話で。そういった形なので、この後に話される卓話を皆さん是非是非興味を持って聞いていただきたいと思っております。本当に40分、45分というのは岡野さんの話、全然短すぎて申し訳ないんですが、なるべく皆さん耳を傾けて聞いていただければ、必ず良いものを持って帰っていただけるような内容じゃなかったらごめんなさい。私が謝っておきます。必ず持って帰っていただけるような内容だと思いますので、皆さん楽しみにしてください。本当に長い卓話を聞きたいので、私の会長の話はこれで終わりたいと思っております。今日は皆さん、よろしくお願いたします。

### ■幹事報告

須藤正樹幹事

- 白河市国際交流協会 会長 内藤義久：「白河市国際交流協会 会報vol.22」の送付について
- ガバナー事務所：ウクライナにおける人道的危機への対応について
- ガバナーエレクト事務所：クラブ目標のアンケート送付とPETSのご案内等の確認のお願い

### ■委員会報告

○ゴルフ愛好会

成井正之会長



皆さん、こんばんは。お久しぶりです。やっぱりこうやって直接会うと本当にいいですね。本当に楽しく思います。手短かに話します。県南分区交流コンペの案内が、今日発送になったと思います。クラブのほうも是非参加していただきたいと思っております。締め切りが3月25日になっておりますので、是非よろしくお願いたします。

○国際奉仕委員会

青木大委員長



皆さん、こんばんは。また、先週の例会に参加していただいた方、ありがとうございます。参加されてない方も国際奉仕委員会で再来週の水曜日、やっと去年の事業のランドセルを送ることができるようになりました。皆さんのロッカーの中には、先週のジョイセフの話のチラシが入っておりますので、後でゆっくり見ていただきたいと思うんですが、再来週ランドセルを届けに行く方が、一緒に行ける方がいらっしゃいましたら、一緒に横浜のほうまで行きたいと思っております。是非とも、お時間のある方はご参加いただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

### ■本日のプログラム

社会奉仕委員会担当例会

○社会奉仕委員会

村上堅二委員長



今日は、社会奉仕委員会のほうの例会になっているんですけども、私のほうもずっと気になっていた方で岡野さんという方がいるんだというお話を聞いてまして、何とかメンバーの方々に会わせて私もちょっと一緒に聞きたいなと思っております。プロフィールのほうは多分用紙が行ってあるかと思っております。岡野誠様は愛知県の一宮のほうで「岡野コーティング」という会社をやられてる方です。ここに説明があったとおり、リーマンショックで非常に厳しい中、本当のどん底を味わった。そして、自己破産まで考えていた時から半年間で日本一の会社に戻したという形の伝説のメンターでありますので、いろんな話を聞きながらでいい思います。時に今は、この辺だと東白川の棚倉町のほうで教育委員会主催の「夢活」という形のものを活動もされております。本当に教育委員会の主催の形でやられる形なので、凄く良かったんだろうなという感じもあります。是非皆さん、今日は45分という時間ではありますが、是非いろんな話を吸収していただければと思います。よろしくお願いたします。

○岡野誠様



よろしくお願いたします。岡野誠と申します。改めましての方と初めましての方といらっしゃいますが、通称、どん底から6か月で日本一などというネーミングのもと、福島で今活動させていただいて早4年が経ちました。まず、簡単に福島に来たきっかけと今の活動をお話させていただきます。今日貴重なお時間いただいております。お伝えしたい事としましては、岡野

誠という人間はどういう人間なのかという人となりを見ていただければ嬉しいかなと思います。2018年11月に、初めて福島県に足を踏み入れました。そのきっかけは、福島県の鮫川村という所の男性から相談を受けまして、事業の再構築と一緒にやっていただきたいということからのご縁で、エキシブのグランディさんという所で講演会をさせていただいたのが初めての福島県でした。今、通称「岡野塾」という学び場であったり、先程ご紹介いただきました夢活教育という子供の教育であったり、いろいろと活動はさせていただいておりまして、そのまず福島で活動をしていこうと心に決めたエピソードからお話をさせていただきますと思います。福島で活動をしていこうと思ったきっかけは、ずばり嘘は言いませんので本当のことを言いますと白河ラーメンの、これはもうお笑いを取るつもりも本当になくて、隠すつもりもありません。僕は本当に言葉のその使い方、申し訳ないかもしれませんが福島という所でやりたいという気持ちは最初はなかったわけです。それまでは、名古屋、東京、大阪、札幌などでいろいろと全国を飛び回る仕事をしておりまして、全国の中で僕なりに日本一のラーメンと出会ってしまったということがきっかけでした。それは、その2018年11月にお連れいただいたラーメン屋さんがありまして、最近勉強したのが、そのラーメン屋さんのお店を言うと、いろいろと支障が出るという大人の事情がいろいろとあるということが最近わかってきましたので、いろいろとまあ今、そのラーメン巡りといいますが、白河にあるラーメン屋さんをすべて制覇しようということで、今辿り着いた僕の大好きな個人的な大好きなお店は「芭蕉亭」さんという所に今辿り着きまして、第2位は「赤門」さんという所でサンラータン麺が体内に巡り巡って、脳内には「アジアンチャオ」さんのローストビーフが入ってます。本当にその翌日に食べたラーメンがすごく衝撃的で、これを毎月食べるにはどうしたらいいんだと僕一生懸命考えまして、ということはやはり少しでも価値のある仕事という言葉を伝えて、多くの人の心を掴まないと食べられないということで、その半年後に講演会の依頼が来まして、すごく舞い上がって半年ぶりにあのラーメンが食べられるんだと、そして支持される場所に着いたらまさかの須賀川だったという。「テンテン」という所で白河でない、でもそこからもう一泊延ばしまして白河まで戻ってタクシーで食べて帰っていったという流れなんですけど。そこから、定期的にご依頼をいただくようになりまして、2020年だったと思います。僕のその人生の失敗と成功に基づいたお話を勉強しようという会を立ち上げていただいたきっかけから、今は西郷村商工会さんを介しまして岡野塾という勉強会をしています。今3期目を迎えまして、塾生さん30名を超える団体となってきました。それは、お仕事としてやらせていただいているんですけど、一番の僕の仕事というか、一番のその得意とする分野は僕自身二代目経営者ですので、二代目経営者、そして先代から例えば二代目、二代目から三代目という事業の継承と承継というバトンタッチの間に入ってお手伝いをするような仕事を今メインでやらせていただいております。この福島県だけでなく全国の企業様で今取引をさせていただいております。それがメインの仕事になります。そして、夢活教育の話を少しさせていただきます。それは愛知県でもともと「立志教育支援プロジェクト」というNPO法人の団体の愛知県の代表をやっております、立志教育という志を立てることを中学生でやっていこうという、簡単にいいますと今社会に出て就職をして仕事が続かない若者が多い。3年内離職という社会問題が今すごく話題になっていますが、3年内以内に辞めてしまう若者が今半数以上、それが5年前のデータなので今ですと多分70パーセント過ぎてるんじゃないかと。僕も会社経営者として、2001年からやらせていただいておりますけども、やはりなかなか働き手が続かない状況ということは、会社の当然教育システムを考えなきゃいけないんですが、一番はやっぱり学

校からの何のために学ぶのかということろ変えていかないと続かないなということで、愛知県で代表をやらせていただいて、講演会を中学校とか小学校に行きましてさせていただいていた経緯がありました。2018年に福島に来させていただいてから、なかなかその活動が愛知県でできなくなってまいりまして、コロナの前、ちょうど本当にコロナの前の年末に愛知県の代表を下ろさせていただきまして、福島県でその子供たちの活動を行っていこうということで旗揚げした3か月後に緊急事態が入ったという流れです。最初は、東中学校さんからご依頼をいただき講演を準備していたんですけども、緊急事態宣言の影響で延期になりまして、そこから一年間我々も活動を停止していましたが、2021年から正式に活動させていただいた一発目がたまたま棚倉町の図書館という所で、こういう教育を進めていこうみたいなお話をさせていただきましたところ、コロナ禍にも関わらず60名前後の親子の皆さんが参加していただいて、そこでお話したのは子供たちにしっかりと未来を見させる力を付けていこうということと、自分の持ち味を見抜く力。そして、動いていく力というこの3つの力をやっていきたいと思いますお話をしたところ、たまたま湯座町長と荒川教育長とご参加をいただいております。それがたまたま棚倉町で推奨している内容とリンクしたということから、棚倉中学校で講演会や勉強会をやりたいということから、昨年2021年の11月1日を持ちまして、棚倉町認定のキャリア教育アドバイザーということで、今活動させていただいております。キャリア教育というのは、社会に出て自ら考えて自ら動く子供を作ろうというような教育でして、僕が最終的にそれを何故やっているのかということをお話すると、棚倉中学、今400名くらいの明日3年生が卒業式迎えて僕も参加させていただくんですけど、その棚倉町キャリア教育受けた子供たちをこの地元の企業で直接入社を促そうという流れを今作ろうとしています。5年以内に、棚倉町と一緒にそれを取り組んでいくという約束のもとでやっています。その根拠としては、今の子供たちというのはやりたい事、そしてやりたい職業とか、夢というのを限らないで持っている状況です。やっぱり、テレビとかインターネットで見えるユーザーですとか、ゲーマーですとか、確かにそのぱっと見で、こんな事をやってみたいなというのはあるんですけど、本当にそれが人生を通してやっていきたいのかというと、聞いたですとそうではない。良い悪いではなくてですね。だったら、どうすれば企業にその就職が促せるかって僕はそれを自分の経験のもとで10年前から全国でお話させていただいてるんですけど。時代は就職という職に就く時代から、人につく時代になってきてると僕は思っています。なので、やりたい仕事じゃなくてもなりたい人を見つければ、子供って大人になりたいと思えるはずなんです。実際のところ、愛知県でやっています「岡野コーティング」という会社は、今10人くらいだと思うんですけど、この中で誰一人「岡野コーティング」がどんな仕事やっているか知らずに面接に来たという異例の会社なんです。僕がこうやってお話をさせていただいて、僕とお仕事したいと言っただけで面接をして、じゃお願いしますといったところから、この会社は何をやっている会社なんですかと、ちょっと変わった会社が10年前からもうそれでしか僕はやっていく自信がなくなってですね、やっているのだからこの福島でもその人という経営者の人達ですね。僕本当にまだまだその多くの人と出会っていないんですけど、今出会った中の経営者の皆様ですと、本当に良く言えばすごく癖の強い面白い人たちが多く、この大人の人達をまじかで見ることが子供たちは今ないと思うんです。なのでそれを夢活パーティーという名前を付けまして、婚活パーティーならぬ夢活という夢を見つけて叶える活動という名前を付けまして、昨年初めて棚倉町の「倉美館」で開催させていただいて、100名の参加者いただきました。今年も7月末に企画をさせていただいておりますけど、そこでご登壇いただきまして、

企業の皆様のその経営者の皆さんが。俺はこんな人間なんだ、等の話をしてもらった中で投票して、その場で未来の求人をしてここで取って貰って貰おうという。僕今、中学3年生全員のグループが今ありまして、直接連絡も毎日やり取りしているんですけども、中学校卒業して本当は就職したい子たちって本当に多いです。一学年で120人いる中で、30名以上の子は本当に中卒でいきたい。だけど、やりたいことがないからとりあえず高校に行ってみるという。アンケート取りましたら、400名中なんと30名近くの子供たちが僕と働きたいと書いてあるんです。僕、何してるか言っていないんですよ。なので、去年ですとやっぱり開催するにあたって費用が嵩みましたので、企業のご協力、ご協賛をお願いしまして、ご協賛いただいた経営者の皆様を舞台に上げていただいて子供たちと一緒に触れ合ってもらって。名古屋でよくこちらでもあるんですかね、企業展っていう企業展ってありますか。年に二回くらい名古屋やってるんですけど、その大きなホールを借りて会社のブースを作りまして、そこに高校生、大学生が集うという。そこに必ず経営者がやるんですよ。スタッフは呼ばなくて、経営者が例えば時間、1時から1時半はA社の経営者が喋るとか、こっちではB者の経営者が喋るとい、その聞きたい経営者の所に行って就職を促すという流れです。それを福島で企業展のようなものを棚倉町でやりたいと思っていますので。今後、長く見て10年くらいの経営の先々のことを考えまして、その若い子たちを入れていきたいと考えていらっしゃるのであれば、是非ご協力いただいて盛り上げていただけると。僕の会社は僕より下のスタッフが多いんですけども、やっぱり多くの会社の、僕製造業なので製造業の今、問題で言いますとベテランの方達沢山いらっしゃるんですけど、中間の方と若者がいない今すごく潤ってると思いますか、その団結力とか技術もあるんですけど、10年後を見据えると引き継がれていないという非常に問題になって。それで、今流行っているのがM&Aという企業買収が、後継者とかスタッフが育成できないからもう会社売っちゃおうという、まあ悪い話ではないんですけども、日本のやっぱり良いものを続けていくべきだと僕は思っているの。そういう意味で、職ではなくて人というもので盛り上げていけたらなと思っています。今、活動している内容はそんな感じですよ。ちなみに、「岡野コーティング」という会社はどんな会社かといいますと、バイク塗装をやっています。2008年にリーマンショックで、もともとやっていた工業塗装という会社の設備の塗装が景気の影響で全く受注が取れなくなったものから、そこから個人の塗装に転換しまして、今はバイク塗装ということで全国で活動させていただいています。「パウダーすぐる」という名前です。まだ名刺交換されていない方、後程お渡しさせて出来たらいいんですけど、会社の名刺があるんですけどこれを作ったきっかけですね、孝幸さんのおかげで去年の11月頃にある食事会でお会いしまして、僕の会社を知っていただいてたバイク乗りの方です。 「なんでお前、名刺もねえのか。」と言われまして。会社の名刺を持ってなくて、初めて今年作らせていただきまして、今はお客様満足度と納品ですね。あと価格の部門、この三部門で日本一をいただいております。先日ですとお笑い芸人の千原誠二さんですとか、昨年ですと岩城滉一さんですとか、芸能人の方が沢山今使っていただいております。ホットなニュースで言いますと、今度の4月に今世界でも話題になっている日本の最大級の二輪のモーターショーが名古屋で行われることが決定しまして、4月8、9、10日ということで「セントレア」でやるんですけども、そちらにも招待をいただきまして初出店で頑張っております。後程、「パウダーすぐる」バイクに乗っていらっしゃる方がいましたら名刺を交換させていただきたいなと思います。というところで、僕がじゃあ45歳、妻一人、子二人、どんな人生を歩みまして、どんな人となりかというお話を今から簡単にさせていただきますか。2001年、僕が25歳の時、父親と二人

で始めた「岡野コーティング」というところからのスタートです。当時はまだ景気も良く、親父も50を過ぎて独立を決めましたので、それを応援したいということで、僕もふらふらしていたんですけども一緒に仕事させていただいたのがきっかけでした。そこから、2年3年4年5年6年7年とうちの親父の信頼と、そして景気のおおもりもありまして非常に順風満帆に会社は大きく売り上げも上がって、そして無借金経営でずっとやっていたところ、すぐに親父が独立したすぐに病気になりまして現場から離れるという事態がありました。その病気をいうのは、脊髄小脳変性症という病気です。パーキンソン病のような小脳が委縮していくという難病指定されている病気です。老化が5年で完結すると言われていた病気です。喋れなくなる、歩けなくなる、呼吸できなくなるというのが、人間は80年かけて起きていると言われていたんですけど、それが5年でなってしまうという病気にかかりました。そこから僕が代表としてやらせていただきまして、親父はまだ車椅子であったりしながらアドバイスを受けてやっていたんですけども、2008年に僕としては一つの勝負に出ようということを決心したのが、お金を借りて会社を大きくしようという事業を拡大を図りました。当時、50坪の工場です。やってたところを工場を移転して300坪の工場を買って、そこで勝負をかけようというのが30歳の時だったと思います。僕はその当時、スタッフがまだ3人の時ですね。3人の時に勝負をかけまして、一気にそこから20人のスタッフを入れまして、2008年12月から新たに法人化も叶え大きくしました。その頃に、多くの名古屋でも沢山の団体がありまして、沢山の団体に入りまして先輩のアドバイスを受けて、建築業の方ですとかいろいろなそういう業種の方にお力を貸していただいて会社を大きくしました。しましたところ、2008年に皆さんも覚えていらっしゃると思いますがリーマンショックというものがありがたことに直撃しまして、大直撃しまして。というのは、今回のコロナですと飲食店ですとかサービス業だと言われていまして、リーマンショックの場合ですと製造業が大打撃で、すべてのライフラインといえますか、車ですとか工業設備がすべて止まってしまいました。我々のような下請けの会社が一切機能しなくなりました。50坪の時は、家賃で15万位の固定費だったんですけど、2009年1月からお支払いが何十倍になった状態です。売り上げが一気に、もう徐々にではなく翌月いっきに電話が鳴らなくなったという。当時、まだ売り上げとしては600万700万位の月の売り上げだったんですけど、1,500万円位をやっぱりあげないと会社が回らない状態だったんですけど。まさかのゼロという売り上げは初めて見まして、2009年あたりから。そこから、まだ若かったので根拠のない自信で、2009年、2010年頑張っていましたけども、いっこうに世の中が良くなろうとしないというか、何も仕事がないということで、当時は亀井大臣という方がモントリアム法案というものをやっていたかきまして、会社のお支払いを止めて救済措置のようなものが出たのでそれをやったんですけど、そんなのでは全く通用せず。だったら、お金をまた借りればいんだということでお金を借りに行くんですけど翌月なくなっちゃうという。非常に悪いスパイラルの中、多重債務になりまして。2010年頃だったと思います。僕が32歳を迎えた頃に、その会社の状況だけじゃなくて家族ですとか僕の身の回りのものがどんどん崩れていくような事が日々起きるようになってきました。まずは、一番近い関係性で言いますと、今中3と小3の娘がいるんですけど、上の中3の娘が生まれて1歳半だったんですけど、1歳半の時に難病になりまして、集中治療室に一年間入るとい事態になって。そして、親父ももう動けなくなりぎりぎりだったんです。一生寝たきりなのか、もう二択ですね。自分で命を絶つのかという二択になってまして。ちょっとこんな話暗くなっちゃいますけど、自殺をしようと思っている家族がいる家族って、非常にもう生きてる心地がしないんですよ。ボールペンですら置い

おけないという。常に監視をしておかなきゃいけないような状況が始まりました。その中、うちの母親が介護してましたけどもノイローゼになり。娘を看病していた嫁がノイローゼになり。そして、従業員が鬱になりみたいな感じで、徐々に自分の周りが崩れていく。じゃあ、自分が頑張らなきゃいけないということで、いろいろなところに勉強しに行ったり、いろいろな人に教を説いてもらったりしましたけども、いっこうに会社の状態は変わらずとなった2011年くらいに、自分としてはもう終わらせようということで、経営者でいいますと自己破産という道があるということをお聞きしまして。その当時入っていた団体に弁護士さんがいらっしやいましたので、その方にご相談をしに行きました。当時、相談料も払えないで一万円と言われまして、一万円もないので誰かに貰ったお菓子を持って弁護士事務所に行きました。これで勘弁してくださいということで。いろいろとその自己破産してからどうする、手続きの仕方とか教えていただいて一時間くらいだったと思います。最終的に結論としましては、自己破産するお金がないという。自己破産にお金が必要なんだということを、そこで初めて学びました。もう頭が真っ白になりました。逃げることもできないし、責めても責められない。自殺をしたとしても借金返済できないという、どうしたらいいのかわからないという状態が2012年頃です。そこから、本当に心のどこかで最終的に会社をたたんでしまえば何とかかなという、ちょっと浅はかな気持ちがありました。あるいは、今はどうかはわからないんですけども、借入額に応じて弁護士さんの費用って変わるんですよ。借入額が多ければ多いほど、手続き、銀行さんへの書類ですとか、内容証明の量が変わってきますので。僕の場合ですと、弁護士さんに当時見積もりを貰ったのは500万円位でした。その後の生活費とか入れると、2,000万円は持つてらんだよねという感じで言われまして。もう本当にだって1万円もない状態でした。ということは、もう逃げも隠れも出来ないし、もうやるしかないという状況です。けど、やる事当時まだわからなかったのが悩んでいたら、最終的に2012年くらいから僕の体調がいろいろと悪化、症状が出てきました。まず一つ目としましては、爪がなくなりました。爪がなくなった方って、あんまり僕聞いたことがないですし、インターネット見ても出てないですけど。この爪のお月様のような半月板というんですか、白い所。ここある日、穴が空き始めるんですよ。なんかぶつけたのかなと思って一週間くらいパツと見ると、もう爪がそこから生えてこないという指がありました。あれっと思って右手を見ると右手もなまってまして、半年くらいで結局全部の指の爪がなくなりまして肉だけの状態。毎日、血が出てるという状態で、冬場のセーターを着る時の痛さという、非常に何でこんなことが起きるんだろうって。そして、あとはその次に襲われたのは帯状疱疹というものが首から上に全部出まして。なんか体を一周すると死ぬとか言われてましたけど、多分死なないと思います。首から上に年に二回くらい、500個以上の帯状疱疹が出まして、病院の先生も何にも事例がないのもう鏡も見えない恐ろしい状態になって。最終的には、体の外が悪くなってきた原因としてはやっぱり心の状態という、中が悪かったということで最終的に僕も鬱に落ち込んでしまったと。2012年から13年というのが、全く記憶にないというか記憶から消したいぐらいの。上の娘も治療しながらでしたが、退院した時の保育園のお金が払えないという、保育園入れない人もいたってぐらいの、もう本当に感情がなくなっていくという。そんな時に、一番僕が動いたきっかけというのは、当時所属していた団体様があったんですけど、そこで役員をやらせていただいてまして、一大決心のカミングアウトをしたんです。僕、こういう場で恥ずかしながら。もう駄目ですっていう、助けてくださいってここで僕一回ですね、人生で初めてみんなの前で土下座をしたのが2012年でした。その時に、動いたきっかけというのは助けてもらったから動いたで

はなく、先輩方が逆に怒ってきたんですよ、僕を。自分で諦めた種は自分で刈れよ。けつは拭けという愛を皆さんからいただきました。反面先程のその自己破産と一緒に白馬の王子様のなものを心の中で持っていたのを何か見透かされたという。だから、僕もその当時まだ若かったんで、こんな病気ですとか、家庭がどうか、従業員どうのって言い訳をしているのはもう止めて、じゃあよしやったらうとそこでスイッチが入ったのがちょうど2012年か13年の、もう鬱の薬も効かない状態だったので、薬も飲むのもやめ、顔もひどい状態だったんですけど、それでも外に出ようということで始めました。そしたら、やっぱり行動すると出会いというものがあり、そこから人生は広がっていきました。そこで出会った僕からするとメンターの方がいらっしやいまして、僕の人生を変えてくれたメンターというのは過去に3人いまして、その3人のメンターのおかげで道筋を謝ることなく進んでこれたきっかけでありまして。その中の一人のメンターの方にいろいろと経営のアドバイスをさせていただきまして、それがちょうど2014年です。皆様もご経験あるかもしれないですけど、その学び場といいますか学習しようとするお金が必要でして、そのお金も当然まだないという状態です。どうしたらいいのかと僕はそこで諦めるという選択もあったんですけど、こんな皆さんの前で土下座する覚悟があるなら、その先生にも土下座しに行ってみようということで大阪まで車で行きまして、その先生の事務所で人生を変えたいって、学びをしたいって、でもお金がないですって頭を下げました。僕としては、そんな稼いでから来いと言われるんだらうなと思ってたんですけどその先生は違いまして、だったら自分の出来ることをやってくれということで何が出来るんだと言われたので、みんなを盛り上げることはできますと、夜の部任せてくださいというような感じで。だったら、懇親会と二次会で皆を結束させるようななんか力になってくれということで、無料で入らせていただいてそこで学びまして。そこで見つけていただいたのが、今のそのバイク塗装という事業だったんです。当初は、法人対法人というBtoBという会社でして、そこにすがるってずっと頑張ってたんですけど駄目だったんです。そうではなくて、その商品やサービスがもっと求めている人達世の中にある可能性があるから、それを探そうということで一緒にやっていたいただきました。当時、塗装でした。塗装のメインというのは工作機械ってご存知ですかね。車を作る機械です。それを「ヤマザキマザック」さんですとか、「森精機」さんですとかいう企業とやってまして、そちらがすべてなくなりまして、その工作機械の塗装というのは全て粉体塗装という塗装なんです。パウダーコートというんですけど。塗装というのは、塗料の液体と粉と今二種類あるんですね。それが工作機械に関しては、その粉のほうの塗料を使ってまして、その理由としまして、塗装した時の環境汚染がゼロというVOCが出ない塗料でして。今、海外ですとBMWですとか車にはそのパウダーコートがもう使われ始めている。日本ですと、ガードレールですとかナンバープレートですとか、その辺は全部パウダーコートで。当時、2008年から新しくそのパウダーコートの設備を入れてまして、法人様の仕事はなかったんですけど、じゃあそのパウダーコートを求めている人達、世の中にいるんじゃないかって調査したら、たまたまお取引先の従業員さんがバイクに乗っていたんですね。たまたま、僕がその先生から聞いて会った人に聞いていくという作業、こういう塗装してますかって。そしたら、その方がバイク乗って、それバイクの人達めちゃくちゃ大好きな塗装だよって。というのは、塗装の中で一番硬さという硬度が高いんです。なので、飛び石ですとか色褪せもなく。ですけど、その設備がないとできないので、非常に全国でも探している人が多いということをお聞きまして、実際その方のバイクを塗らせていただいて、塗ったら早さも早いし安いし品質もいいから、これホームページ作ったらという話になりました。そこから

ホームページを作り。作った瞬間から問い合わせが全国からばっと走るようになり。そして、その中に多くのメーカー様とかからも取引も始まり、それをどんどん原点はお客様に聞いてスタートしたので、お客様に聞いてまた商品を開発してという流れで、起ち上げてから今まで10年経ってない事業として「パウダーすぐる」というすぐれたというすぐるです。年が45ですので、キン肉マンのキン肉スグルが好きでして、早い安い美味しいという牛丼のキャッチフレーズなので、すぐるもノリで付けちゃったら広まっちゃったというですね。ですので、「パウダーすぐる」で検索していただくと、うちのスタッフですとか会社の雰囲気ですべて出ているサイトがあります。僕が現在はここで活動しています。過去はそんな事がありました。飛び出たきっかけとしましては、僕の失敗した浅はかな経営の考え方や安直な行動で、非常に自分の人生と多くの人を巻き込んだ経験がありまして、それを二度と起こすまいということで、自分なりに建て直しをかけたんですけど、その評価がいろいろな人のお話もありまして、そのご依頼いただいて初めて人前でこうやって立ってお話したのが2015年が初めてさせていただいて、1時間半いきなり初めて話していただいて。なので、そこで大事なのはこういうことですよみたいな感じで。全然そんなお金を貰ったりしたこともなかったので。でも、そこで話してみたら意外になんか楽しくて、非常に反響も良かったということで2015年そのまま名古屋でもうノリで「岡野塾」というのを起ち上げて、そこから大阪、東京、札幌。福島の前は三重県で養ってもらってまして。三重県に行ったことある方、いらっしゃいますかね。三重県って聞くとイメージされるのって松坂牛とかあるじゃないですか。ですけど、三重県の人、松坂牛とか牛肉食べないんですよ。焼き鳥、鶏肉なんですね。焼き鳥って全国で表現が違って、三重県の焼き鳥というのは串が刺さってなくて鉄板にキャベツと鶏肉を味噌で混ぜた、こちらでいうと辛子味噌を少し甘くしたようなベースのものがあって、それが衝撃的に美味しくてですね。当時も、焼き鳥を食べるためにどうしたらいいんだろうということで、三重県で一生懸命仕事をしています。その三重県、東京でやった時に、福島の方からのご連絡で、一度東京でお会いしてきっかけとしては2018年に来たという流れです。最後になりますけど、僕はじゃあその何故その6か月で会社の立て直しもしまして、人生を変えられたのかというお話を簡単にさせていただいて。普段は会社経営だけでなく、僕今お話をさせていただいてるプログラムとしては、3つの経営というのを持っています。一つは、会社経営です。二つ目は、人生経営です。三つめは、家族経営というので、会社経営に関しては会社経営者の方達。人生経営というのはサラリーマンやパートさんやOL。家族経営というのは親御さんという、3つのお話をさせていただいてるんですけど、その会社経営の部門だけでなく人生経営、そして家族も。1歳半で病気になった娘も、頭を切開しまして、すべての神経をもしかしたら切ってしまうという大手術を1歳半の時にしまして、同意書も書いたんですけど、今中3までなりまして、また後遺症も残らず元気に過ごしているという奇跡的な状況もあって。家族もよく聞かれます。福島で、奥さん大丈夫なんですか。この中のメンバーの方ではないんですけど、そうやって聞く方は多分今の奥さんとちょっと危ないのかなって感じがする。全然本当に嘘偽りなく非常に仲良くて、毎日連絡も取り合ってお互い楽しく過ごしています。いろんなプログラムでお話しているんですけど、今日はそういうことではなくて僕のその人となりという話で、一番のきっかけは2014年2月1日でした。2002年に発病した父親がそこから12年間闘病と申しますか寝たきり生活で、何も自分でできなくなってって、そのまま人間の生存機能がなくなって、2014年2月1日に他界をしました。12年、非常に家族も正直大変でして苦しかったんですけど、その父親が亡くなった瞬間に僕のその人生という何か苦悩が

晴れた気がしまして。というのは、小中高、社会人、経営者になってから、ずっと僕は人の評価を気にして、他人がどう思うのか、どんなふうに褒められたいのかということすべてをやったりやってきてたので、そのまま父親が病気になったので父親の名を汚さないというか、二代目としてそれで一生懸命頑張って。ということは、親父がいなくなってしまったので、僕が会社経営をやる意味とか意義がなくなり、生きていく価値もなくなった瞬間がその2014年の2月1日。喪主としていろいろな葬儀とかやる中で思ったのは、うちの父親いろいろな影響を与えて、塗装業界でもすごく有名で、気は心なり心は気なりということで、ずっと地道に塗装でもですね、見えないところを綺麗にしろと怒るような親父でして、沢山葬儀にも300人くらいの方が来ていただいたような方だったんですけども、そこから初七日、四十九日、百箇日とか進んで行く中で、絶対的にうちの父親のことを忘れていく人達を見ていったわけです。僕その時に、人間ってというのは2回死ぬのかなと自分なりに悟りました。1回目は肉体が亡くなっていくという死亡ですね。もう一つは、いわゆる存在の死という、自分の事を語ってもらえない世の中がいつか来るという恐ろしさを目の当たりにした時に、当下の子も生まれていまして、僕が例えばその時に自殺をしたり病気で死んだ時に、もう一年もすれば僕の事を覚えてもらえない世の中が多分当時あったなと。だから、やっぱりそのどれだけ生きていけるかわかりませんが、自分の事を一日も長く話してもらえよう世の中を作りたいなと。ただ、なので家族のために飛び出たというのが、僕のきっかけです。なので、それは未だに変わってませんし、極端な話ですと寝ていてもそのことを考えて、やっぱり自分の肉体の死は怖くはないんですけど、存在の死ほど怖いものはないので、それを阻止したいなと思っっているいろいろな活動をしています。たまたま、そのコロナ禍という今、世の中が変わり始めている中で、リーマンショックも経験して思うのは、やっぱり今の世の中こう萎縮してなかなか行動制限とか起きる中で、そういう活動をしていけないという風潮になっているものを、何かその僕の力でちょっと元気づけたいなと思っ最近では福島を駆け回ってると。ちなみに今、龍文さんの監視下のもと僕も逆に監視されていますので。二番町あたりで飲んでいまして、ひとつそれとしては企業の皆様と子供たちを繋げて5年以内に直撃で就職が行われていって、離職をしない子供たちが増えていくように活動していきますので、これからもどうぞよろしくお願ひします。今日は貴重な時間いただきましてありがとうございます。これにて、終わらせていただきます。ありがとうございます。

#### ○鈴木孝幸会長

岡野さん、大変卓話ありがとうございました。岡野さんの卓話は、実はこれからがこの先が本格的に為になってくると思います。是非、この1回限りではなくてですね、この次の話を聞くために、これは多分次の高島エレクトのほうにバトンタッチすると思いますが、来年も是非この機会を作って是非西ロータリークラブの皆様を元気づけていただくとありがたいと思います。今日はありがとうございました。

